

東京の田んぼ復活プロジェクト

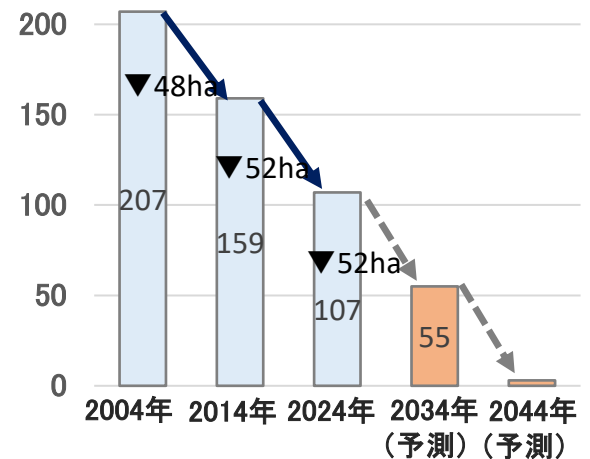
～22世紀に引き継ぐために～

田んぼ、用水路の危機

- ・20年後、**田んぼは消滅の危機**
低い収益性、農業者の高齢化、
農業用機械の老朽化
➡農業者のみでは田んぼの維持困難
- ・田んぼ耕作者の減少で、田んぼに水を引く**用水路の維持も困難**に。

農作業したい都民

- ・都政モニター調査では57%が農作業体験をしたいと回答。若い層ほど関心が高い。
- ・地域住民と支え合いながら安定的な農業経営を目指すCSA(地域支援型農業)に注目。



都民との協働・交流による田んぼ、用水路の保全活用

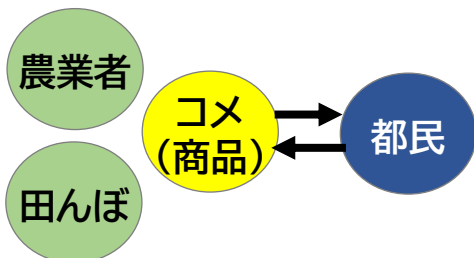
田んぼの保全、
協働・交流による
田んぼの活用、
用水路の保全管理

生産・多面的機能の増進
関係人口の拡大
地域活性化

地区数: 5地区
補助額: 1年目300万円
2年目250万円
3年目200万円

都民と田んぼの関係

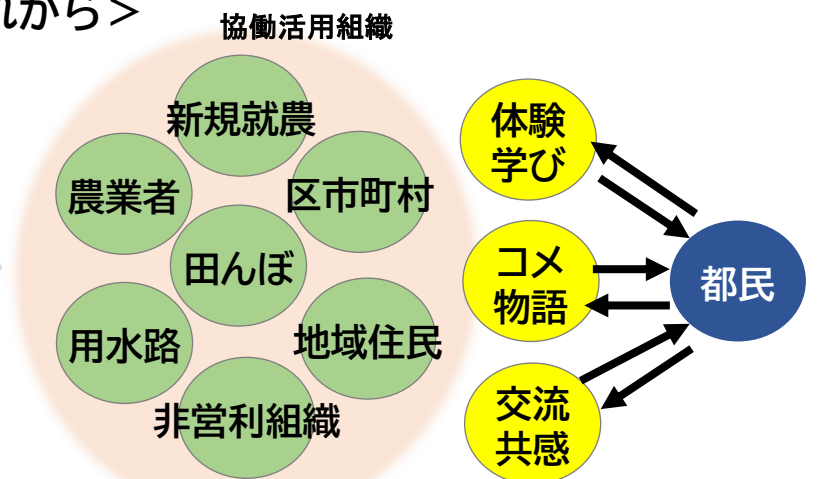
<今まで>



田んぼは「コメだけ生産」する場
コメを購入するだけの、**商取引的な関係**
低い収益性 ➡ 田んぼの減少

<これから>

田んぼの再評価
多様な主体が携わる



コメ、農作業、学び、交流、共感、喜び、苦勞を**シェアする主体的関係** ➡ 新しいコミュニティを創造
都民交流によりコメ+αの収入 ➡ **ビジネスとして成立**



日野の田んぼをつなぐ会

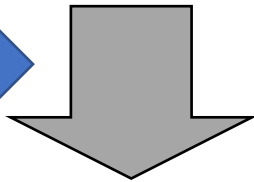
活動方針

- ◆ 田んぼと地域、そして地域で暮らす人たちと「つなぐ」
- ◆ 田んぼに関わる人と人を「つなぐ」
- ◆ 田んぼを先人から未来の世代に「つなぐ」

設立経緯

- ◆ かつては多摩の米蔵と言われた日野 ➡ 急激に減る田んぼ わずか5ha
- ◆ 田んぼを残そうと模索 ➡ 個別の活動では限界

東京の田んぼ復活プロジェクト



お互いの力を合わせれば、より多くの人に田んぼの良さを伝えられる

メンバー

日野市都市農業振興課、JA東京みなみ、向島用水組合、上田用水組合、石坂ファームハウス、清水農園、TANBO NO WA(馬場)、(一社)TUKURU、まちの生ごみ活かし隊 田んぼ面積6500m²

今年の活動

- ◆ 田んぼ活動(田植え、稲刈り、脱穀、わら細工、餅つき) 17回 参加者1100名
- ◆ 用水路保全の協働活動(清掃、草刈、補修) 7回 参加者 125名
- ◆ 4地区の生き物調査を実施 ➡ 地域ごとの生物相の違いを把握
- ◆ ロボット除草機の導入 ➡ 除草剤の使用削減

